

ほうれんそう 病害虫防除暦

防除体系（登録薬剤）

J A庄内たがわ
令和6年度（2024年）版

2023.12.25時点の農業登録情報をもとに作成

殺虫剤、殺菌剤		2023.12.25時点の農業登録情報をもとに作成					
防除時期	対象病害虫	登録農薬名	希釈倍数	水100ℓ当たり 薬剤量	使用時期	使用回数	備 考
播種前	ネキリムシ類 ホウレンソウケナガコナダニ	フォース粒剤（劇）	9kg/10a	—	播種前	1回	全面土壌混和
生育期	べと病	ランマンフロアブル	2000倍	50ml	収穫3日前まで	3回以内	散布液量100～300ℓ/10a いずれかを散布する
		レーバスフロアブル	2000倍	50ml	収穫3日前まで	2回以内	
	アブラムシ類	マラソン乳剤	2000～ 3000倍	33～ 50ml	収穫14日前まで	4回以内	散布液量100～300ℓ/10a
	アブラムシ類 ホウレンソウケナガコナダニ	リーフガード顆粒水和剤	1500倍	66ml	収穫7日前まで	2回以内	散布液量100～300ℓ/10a
	ヨトウムシ	ノーモルト乳剤	2000倍	50ml	収穫7日前まで	2回以内	散布液量100～300ℓ/10a
	ホウレンソウケナガコナダニ	カスケード乳剤	4000倍	25ml	収穫3日前まで	3回以内	散布液量100～300ℓ/10a
	ケナガコナダニ類	ネコナカットフロアブル	1000倍	100ml	収穫3日前まで	2回以内	コナダニが表層土に移動する本葉2葉期頃がおすすめ 散布液量200～300ℓ/10a
	アブラムシ類 アザミウマ類	アドマイヤーフロアブル（劇）	4000倍	25ml	収穫前日まで	2回以内	散布液量100～300ℓ/10a
	ハスモンヨトウ ホウレンソウケナガコナダニ	ディアナSC	2500倍	40ml	収穫前日まで	2回以内	散布液量100～300ℓ/10a

除草剤		2023.12.25時点の農業登録情報をもとに作成				
適用雑草名	登録農薬名	10a当たり使用量 （散布液量）	使用時期	使用方法	使用回数	注意事項
1年生雑草	ラッソー乳剤	150ml (100ℓ)	播種直後	全面土壌散布	1回	1.砂壤土では使用を避ける。 2.イネ科雑草に効果があるが、タデ科、アカザ科などの広葉雑草に効果が劣る。 3.雑草発芽後では効果がないので、発芽前に散布する。 4.きゅうり、ねぎに薬害が発生しやすいので、飛散しないように注意する。
1年生雑草	アーゼラン液剤	秋播き 600～800ml (100～200ℓ) 春～初夏播き 800～1,000ml 但し、芽出し播きは 800ml (100～200ℓ)	播種後～子葉展開期	全面土壌散布	1回	1.砂壤土、砂土では薬害を生じやすいので注意する。 2.高温時（最高気温25℃以上）では薬害が生じるおそれがあるので使用しない。 3.播種後～子葉展開期までで、雑草の発生前～発生始期（草丈15cm以下）に、使用量を厳守して散布する。 4.ヒユ科・アカザ科・カヤツリグサ科雑草及びツユクサに対しては効果が劣る。

適正管理について！

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 園地の適正な排水管理を行う。
3. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。
4. みつばちへの配慮を行う。

防除器具の農薬残留に留意！！

- ・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整後にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。